

ご意見・ご要望を募集中！

あなたの声を市政に!
その声を形に!
三井みわこは市民の皆様の声を
積極的に市政に届けていきます!!
是非ご意見・ご要望をお聞かせ下さい!



三井みわこに取り組んでほしいこと

Q1. 関心をお持ちのテーマを教えて下さい。

- 環境・ゴミリサイクル 行政サービス
 文化・スポーツ 教育・子育て
 医療・保健 高齢者福祉
 産業 障がい者福祉
 公共交通 防犯・安全
 地域・商店街活性化 その他()

Q2. 千葉市を良くする為の提案はありますか？

Q3. 三井みわこに何を望みますか？

Q4. 将来、日常生活動作等の低下によって自分で買い物に行けなくなったときに、食品や日用雑貨などを購入する際、希望される方法はどれですか？

有償の買い物代行サービスを利用する。

近所にある宅配など、配達してくれるお店に注文する。

家族・知人にお願いする。

その他()

Q5. 掃除、買い物など専門職（介護福祉士等）でなくともできるサービスについて、専門職ではないが、市の研修を修了し、介護事業者から派遣される方でも利用しますか？

数字に○を付けてお答え下さい。

1. はい 2. いいえ 3. わからない

このアンケートは**043-216-5433**までFAXをお願いします。
ご協力ありがとうございました。

【個人情報に関するお知らせ】

個人情報は厳正に管理し、三井みわこ事務所以外では使用いたしません。

三井みわこ プロフィール

1971年：生まれ 千葉市中央区登戸在住
2002年：NPO法人ハートケアゆーあい（障がい者の施設）設立
2003年：聖徳大学大学院児童学研究科修士課程修了
2006年：NPO法人政策塾「一新塾」（熊谷市長と同期）卒塾
千葉県教育戦略ビジョン策定作業部会委員
2007年：社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム「ほんだくらぶ」の運営に携わる
2008年：ちばCO2CO2ダイエット推進／県民会議 委員
2010年：千葉市「新市民計画策定のための市民ワークショップ」委員
2011年：千葉市議会議員選挙 初当選
2013年：都市建設委員会副委員長
2015年：千葉市議会議員選挙 2期目当選

ご意見・ご要望がありましたら、
右記の連絡先までよろしくお願いします。

E-mail : mm@mitsui-miwako.com
Twitter ID : 三井美和香
発行: 三井 美和香
TEL: 043-216-5432
FAX: 043-216-5433
千葉市中央区登戸 1-11-13-203



三井みわこ

で検索!

なでしこ力!!

三井みわこ 議会報告

第1回定例会 一般質問で登壇！



私は、これまで福祉の視点、女性の視点で、高齢者も障がい者も、子どもから大人まで、誰もが「安心・安全に暮らせるまちづくり」を目指して取り組んできました。引き続き、定例会や委員会等を通じ、福祉の専門的知識を活かして、積極的に取り組んでいきます。さて、平成30年第1回定例議会が2月20日～3月15日の間で開催されました。今回は、「保育について」「多様な人材の労働参加について」登壇しましたのでご報告いたします。



市長へ会派の予算要望書提出、平成30年度予算に反映！

11月に会派として予算要望書を提出、平成30年度の予算に多くの反映していただきました。

主な予算化事業

- 防犯カメラ設置（40台→80台）
- 庁内ネットワークシステム等の更新
- （仮称）千葉公園体育館の整備
- （仮称）千葉公園ドーム整備
- 禁煙の支援
- 障害者総合支援
- 子どもルーム整備・運営
- 放課後児童健全育成事業補助
- 保育士等の確保
- 保育の質の確保
- 観光プロモーションの推進
- 稲毛海浜公園施設リニューアル
- 学校防犯対策
- 小学校英語教育の充実
- 教育情報ネットワーク更新
- 放課後子ども教室推進
- 子ども・子育て支援新制度給付対象施設の整備
- 自主防災組織の育成（活動助成1人80円→150円）
- 夜間の経済・文化活動の振興（ナイトタイムエコノミー）
- 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取組み



中央区内予算化事業

- ゲリラ豪雨の浸水被害対策（椿森3丁目、蘇我駅東口ロータリー）
- 千葉駅・蘇我駅東口周辺防犯カメラ設置
- 航空機騒音問題に対する国との対策協議継続
- 栄町地区の活性化
- 千葉公園スポーツ施設の再編・再整備
- 通学路へ緑色の路面表示



平成30年第1回定例会 一般質問

保育について



子ども・子育て支援の充実は、「質の向上」と「量的拡大」が求められ、積極的な取り組みが期待されています。保育の受け皿の量的拡大をいかに図りながら、質の高い保育士を育成し、保育の質を向上していくのか、本市における保育行政の今後の取り組みについて質しました。

本年度、過去最大数の定員確保と保育士待遇等盛り込んだ、整備計画を策定したが、経過及び目標達成は?

A 保育士の待遇改善について、平成29年10月から市独自に月額最大3万円の給与改善、保育の受け皿確保について、幼稚園の認定こども園への移行や、認可外保育施設への認可化などに加え、小規模保育所整備を進めた結果、現時点で、55か所、1,423人分を確保できる見込みです。

0~2歳までを預かる小規模保育事業を増設しているが、保育士等の研修受講者数及び課題は?

A 研修の参加人数約3,200人のうち、小規模保育施設の参加者は約190人(約6%)、小規模保育施設の割合約14%からすると少なく、代替職員の確保など研修に参加しやすい環境づくりが課題となっています。

研修の受講者数が低いが、各園に講師が赴き研修する、出前研修があればよいが?

A 公立保育所の所長等経験者である巡回指導員が年8回程度各施設を訪問し、保育内容などについて助言・指導等を行っています。出前研修については課題を整理した上で調査研究していきます。



連携施設の役割及び3歳以降の受け皿確保については?

A 連携施設の役割は、合同保育、園庭開放等の保育内容の支援や、保育従事者の急病時等の代替保育、卒園後の受け皿設定などです。受け皿設定については、3歳を迎えた次の4月入所の選考において最優先で利用調整を行っています。



3歳児の受け皿として幼稚園の認定こども園への移行について、現状と課題は?

A 16園が認定こども園に移行済み30年4月には、さらに5園が移行し、21園となる見込みです。課題は、認定こども園に対する理解を促進、事務の簡素化など、効果的な対策を講ずる必要があると認識しています。



一時預かり事業の現状と課題については?

A 市内で40施設が実施、中央区13か所、花見川区3か所、稲毛区6か所、若葉区6か所、緑区6か所、美浜区6か所となっている。課題は、保育士不足などにより運営が難しくなっているとの声も上がっていることから、安定的な運営体制の構築について検討していきます。



本市で把握している医療的ケア児の人数、さらには医療的ケア児を受け入れている保育事業所は何か所か?

A 医療的ケアが必要な人数については、把握ていません。医療的ケアが必要な児童を受け入れている施設数は、公立保育所が2か所、民間保育園が2か所です。



実際にどのような体制で実施しているのか?

A 公立保育所は、幼保運営課に配置している看護師資格を有した巡回指導員が、該当の保育所を訪問し、医療的ケアを実施、民間保育園は、施設に配属している看護師が実施しています。

これまでのご答弁で、市として、待機児童の解消と保育の質の確保の両立を図るとともに、多様な保育ニーズへの対応もご努力されていることがわかりました。しかしながら、まだまだ課題も多いということもまた事実だと思います。我が会派としては、これまででも代表質疑等で指摘してきましたが、保育の質の確保が最重要課題と捉えています。



改めて待機児童の解消と保育の質の確保についてどのように考えているか?

A 待機児童の解消と保育の質の確保は車の両輪であると考えておらず、引き続き国基準を上回る認可基準に基づき計画的な施設整備を進め、待機児童の解消を図ると同時に、保育士の待遇改善を始めとした保育士確保策や、巡回指導の充実、効果的な研修の実施などにより、保育の質の確保に努めています。



三井みわこから意見・要望

待機児童解消を目指す上で、今後、子どもが3歳になった際に、その後の受け皿が不足しているという事態にならないよう計画的な整備をお願いします。



小規模保育園の巡回指導の強化は、食事環境や午睡環境等について重点的に確認していただきたいと思います。医療的なケアを必要とする子どもに関しては、一時預かり事業と同様、親の就労機会を保障するという意味でも、医療的ケア児とその家族への更なる支援をお願い致します。

子ども・子育ての制度は、保育園・幼稚園、認定こども園、そしていろいろな保育施設が子ども達の幸せのためにあること、保育の質の確保を十分にしたうえでの量の拡充が必要となってきます。当局におかれましては改めてご認識いただき、本市の保育行政に取り組んでいただきたいと思います。

ドローン活用の取組みについて（東京都あきる野市）

2018年4月20日（金）、「ドローン活用の取組みについて」東京都あきる野市へ視察に伺いました。



● ドローンの活用について

安心・安全の取組

- 市総合防災訓練において、大型ドローンによる支援物資輸送のデモンストレーションを実施したほか、地域の防災訓練でドローンに関するブースの設置、ドローンを用いた救出訓練などを実施

● 国家戦略特区について

多摩地域の土砂災害警戒区域等における「ドローン」特区を活用した実証実験の実施（H28.12.12認定）

① 平成29年5月実施

- 5.7GHzの電波帯を使い、ドローンから伝送される鮮明な画像等を活用することで、(1)住民の安否確認方法(2)迅速・効果的な復旧対策などについて検証する。

② 平成30年4月実施（予定）

- 5.7GHzの電波帯を使用した大型ドローンの通信状態を検証する。

● 人材育成について

人材育成

- 講習会の実施（株）スカイシーカー社員を講師とし、戸倉しろやまテラスで職員向けの講習を実施。
- パイロットチームによる自主練習会の実施



● 所感

今後、千葉市でもドローン活用について、ドローン開発チームの創設、災害時の活用など検討する余地がある。

但し、操縦技術を持っている人が登庁できない場合もある為、庁内各局でドローン操作ができる人材を養成する必要がある。